

或阿呆の一生・侏儒の言葉 (角川文庫)



[或阿呆の一生・侏儒の言葉 \(角川文庫\) 下载链接1](#)

著者:芥川 龍之介

出版者:角川書店

出版时间:1992年4月

装帧:文庫

isbn:9784041033104

昭和二年七月二十四日、芥川は自宅で致死量の睡眠薬を仰ぎ三十五年の生涯をおえた。本巻収録の「或阿呆の一生」「歯車」等はいずれもその遺稿。自らの末期を意識した凄絶な心象と病的に研ぎ澄まされた神経は、一種異様な美を生んで読者の心を打つ。ほかに遺書「或旧友へ送る手記」、最後の評論「西方の人」、箴言集「侏儒の言葉」等を併録。

作者介绍:

芥川 龍之介

1892 - 1927。東京の下町生まれ。幼いころより和漢の書に親しみ、怪異を好んだ。一高、東大英文科にすすむ。在学中に書いた「鼻」が夏目漱石の激賞を受ける。しばらく教員生活をしたのちに創作に専念、第一創作集「羅生門」によって文壇の地位を確立。以後、王朝物、キリシタン物、開化物など、たえず新機軸につとめ、知的で清新な作風をつくりあげた。睡眠薬により自殺

目録: 「たね子の憂鬱」
「故千屋」
「冬」
「手紙」
「三つの窓」
「歯車」
「暗中問答」
「夢」
「或阿呆の一生」
「本所両国」
「機関車を見ながら」
「凶」
「鵜沼雑記」
「或旧友へ送る手記」
注釈
作品解説
同時代人の批評
・ ・ ・ ・ ・ ([收起](#))

[或阿呆の一生・侏儒の言葉 \(角川文庫\) 下载链接1](#)

标签

芥川龍之介

日本

日本文学

青春

日语

日本語

小説

。

评论

对自己精神状态的描述，到了令读者不安的地步，难以直视。

青空文庫で読んだ。第五章“先輩”的原型是谷崎润一郎，结合小说执笔时间来看应当是受到了当时和谷崎的“小説の筋”的论战的影响。

放弃了orz
头一次读原版书中途放弃，丧失一个装b机会，而且已经努力啃到240多页了！前面小说真挺乐的，但像侏儒的话那样把一句一句可乐的话都集中起来，那不就是糖精不掺水么……无论如何吃不下去……就算美男作家也要寓教于乐啊！

这群写了一辈子自伤自怜的文字，却跳不出自身所陷的怪圈的日本作家，我有点明白他们的悲剧的来源了——一群抱着文学梦上京，企图通过写作改变命运的青年，既不懂什么是贵族情怀（所以他们写不出《春雪》），又没有改变社会的方法和勇气（所以他们写不出《奔马》）——所以他们在三岛面前都是渣渣

角川的这几卷芥川文库本，08年前后再版时illust请的天野喜孝。虽然分别是我喜欢的作家跟画家，放一起真有点儿违和。

[或阿呆の一生・侏儒の言葉 \(角川文庫\) 下载链接1](#)

书评

[或阿呆の一生・侏儒の言葉 \(角川文庫\) 下载链接1](#)